



# 賢く 優しく 逞しく

12月号・令和6年12月2日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校

## 自分の命も相手の命も大事にする

校長 榎戸 千代子

早いもので、「師走」となりました。一般的に「師走」は、12月の忙しい月のことを指します。一説によると、「師走」の「師」とは「僧侶」を指すとされ、年末にお坊さんが家々を訪れて経を唱える習慣があったことから、忙しく走り回る姿を見て、この名が付いたといわれています。年末は、大掃除や買い出しなど、新年の準備で忙しくなると思いますが、せめて「ゆず湯」につかって冷えた体を温め、新しい年を迎えたいものです。



さて、12月10日(火)は「世界人権デー」、日本では、12月4日(水)から10日(火)までが「人権週間」です。本校も12月を「人権尊重教育強化月間」としています。「人権」とは、「自分の命も相手の命も大事にする」ことです。特に、本校は市の「特色ある学校づくり推進校」に指定されており、研究を進めています。研究主題は「生命尊重と思いやりの心をもった生徒の育成」です。



2年生は、人権課題を「障がい者」とし、11月5日(火)の5、6校時に、車いすバスケットボール女子パラリンピック日本代表選手の、網本麻里さんをお招きして、体験と講演会を行いました。競技用車いすを動かす体験やミニゲームを通して、パラスポーツに親しみ、障がい者との関わり方や共に生きる社会について考えました。網本選手からは、ボールを味方にパスするとき、相手が取りやすいように前の方へ投げることで、これが「思いやり」につながるというお話がありました。楽しい体験を通してパラスポーツを理解し、障がい者との関わり方について考えることができました。

また、1年生は、人権課題を「高齢者」とし、11月25日(月)の6校時に、市の高齢福祉課の職員の方2名を講師としてお招きして「高齢者のためのまちづくり学習講話」を実施しました。高齢者のサポートには「介護保険制度」があることや市内で様々な介護予防教室が開かれていることなど、高齢者の皆さんが、「幸せ」で「楽しい」と感じてもらえるように、市として様々な取組を行っているというお話をいただきました。市のホームページによると、11月1日現在、武蔵村山市の人口は、70,736人、そのうち65歳以上の高齢者は、19,127人(高齢化率27.04%)だそうです。高齢者の方々と中学生がどのように関わり、何ができるのかを今後の事後学習(まちづくり学習)で考えていきます。



## 生徒会役員大活躍！～「デエグラまちづくりサミット」「残堀川清掃」「募金活動」～

11月10日(日)のデエグラまつりで、イオンモールセンターコートを会場にして、2年徒会役員の中西さん、塚田さん、比留間さんが「まちづくりサミット」に出場しました。このサミットは、武蔵村山高校生徒会、第十小学校児童会の皆さんも一緒に参加し、武蔵村山市がこんな「まち」になったらいいなという内容をそれぞれ発表し合い、意見交換をしました。

また、11月24日(日)には残堀川クリーンアップ作戦があり、同じく生徒会役員2年の中西さん、比留間さん、永田さんが参加してくれました。新残堀橋から青岸橋までの川岸約1kmを往復し、市民の皆さんと空き缶やごみをたくさん拾い清掃活動を行いました！

さらに、生徒会役員の皆さんは、12月1日(日)の午前中に歳末助け合い運動で、いなげや残堀店とダイエー武蔵村山店の街頭に立ち、募金活動に取り組んでくれました。

明るいあいさつ・みんなの笑顔

第五中学校区(二小・八小・十小・五中)